

四條畷市が令和2年度から実施している、電気自動車を用いた自動運転サービスの運用に向け、令和6年度は路車協調システムの試行に関する実証実験等の支援をしました。

<使用車両>



自動運転車両

- 定員: 7人(乗客6人)
- 速度: 19km/h程度(自動運転)
- 導入台数: 1台
- 運転手: 地域ボランティア
(事前に運転講習を実施)

実証実験主体

四條畷市

体制

サービス

地域内移動の支援、地域拠点の賑わい創出

運賃

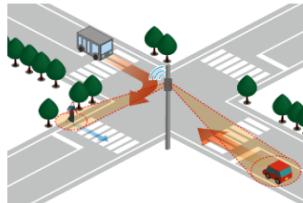
無料

運行ルート

田原地域の拠点となるグリーンホール田原と
田原台センターを反時計回りに運行

路車協調システム

路車協調(交差点センサ等)



概要

交差点等における道路状況の自動運転車への情報提供に関する実証実験

実験主体

地方整備局等
(路車協調システムの機器調達・設置、技術的検証)

内容

- システム設置、自動運転車への情報提供
- 効果検証(車両ログ等の活用)
- 実験結果とりまとめ

引用元: <https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001712215.pdf>

実施箇所

四條畷市 周回3km(グリーンホール田原-
田原台センター間を結ぶ環状ルート)

運行計画

所要時間15分 10便/日(合計50人/日)

実験期間

令和6年11月1日～令和6年12月10日
※水土日祝運休

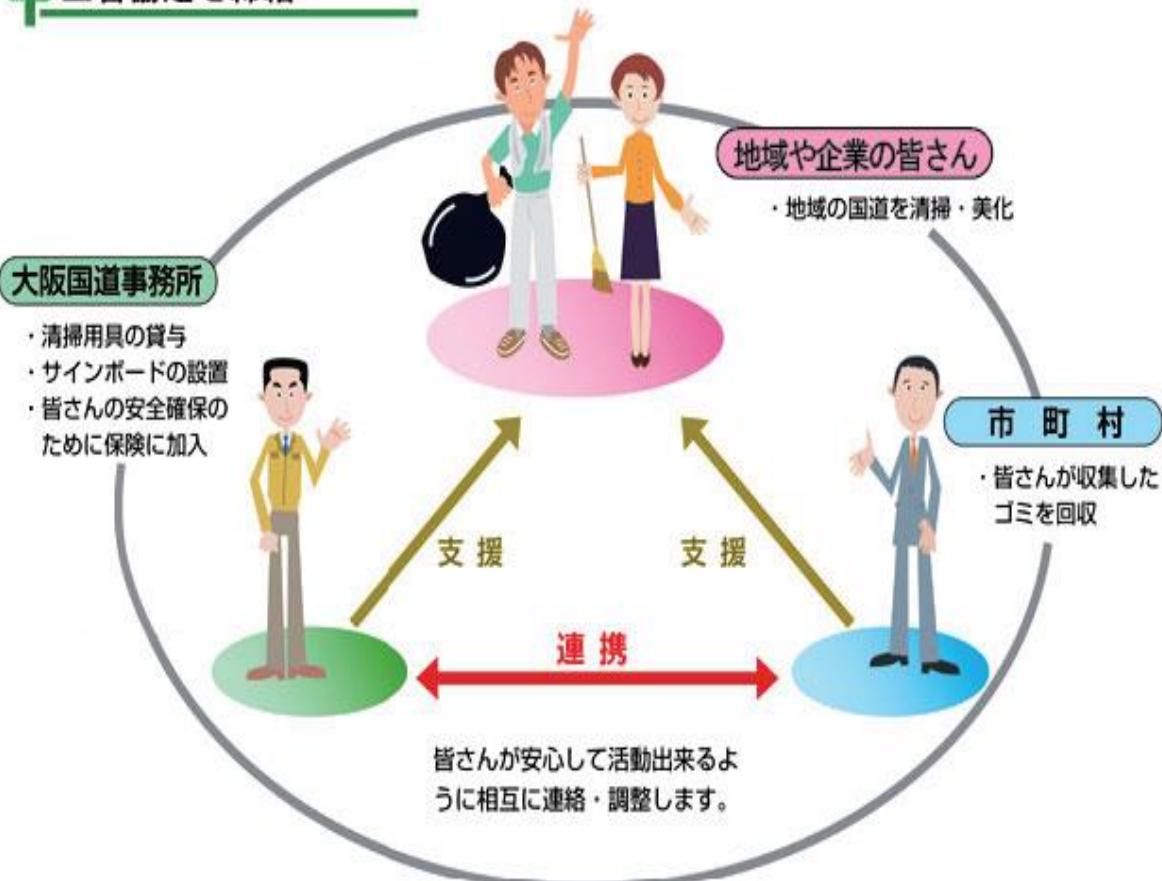
実証実験概要



実証実験状況

国道の美化清掃等を実施する地域や企業の皆さんで構成するボランティア団体（令和7年3月末現在 79団体）と協定を締結し、皆さんと共に快適な道づくりを進めています。

三者協定を締結



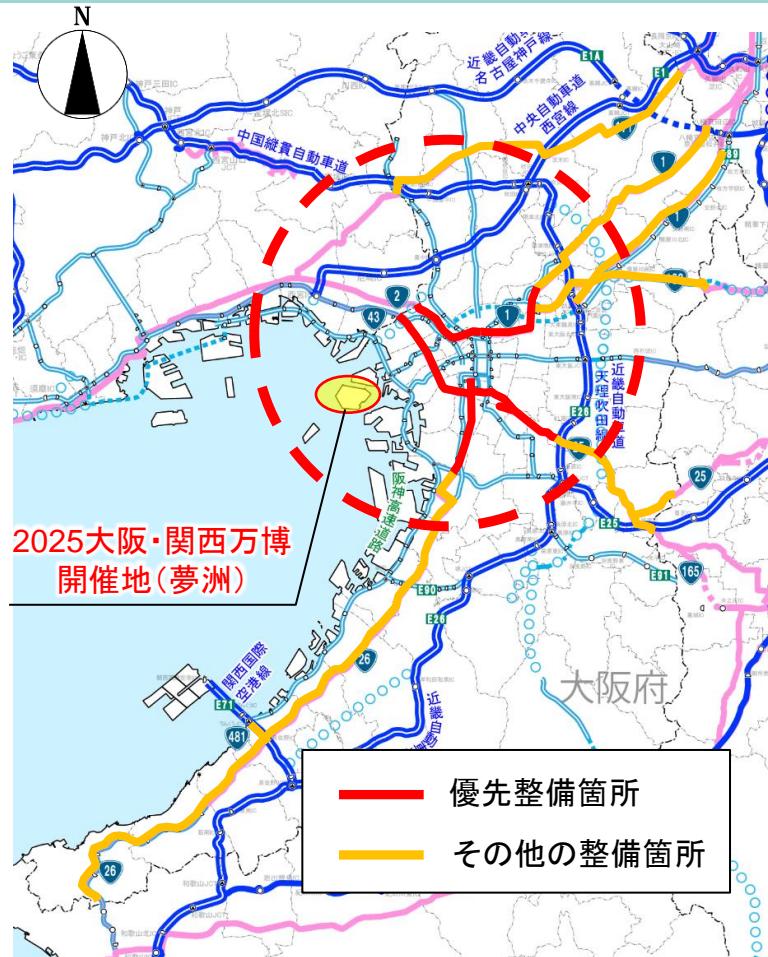
～活動状況～



2025年「大阪・関西万博」に向けた対応

- ・電線共同溝の蓋に、鍵付き内蓋を設置し、防犯性能を高めます。
- ・市内国道沿いの街路樹は、樹形が良好な状態になるよう剪定を実施しました。

■優先整備路線国道1号、2号、25号、26号、43号



- 大阪市では、観光施設が集中する御堂筋や道頓堀周辺を中心に、年間2,000万人を超える観光客が訪れており、地域に与える問題の一つとして歩行空間の混雑が発生し、市民生活に支障が生じています。
- 大阪市による「御堂筋チャレンジ2024」に参画し、オーバーツーリズムによる歩行空間の混雑緩和の対策として、道路照明に投影機を設置し、路上にプロジェクションマッピングの技術等を活用した歩行者案内の実装に向けた実証実験を実施しました。

概要

- 実施期間
令和6年9月2日(月)～令和6年9月29日(日)
18:30 ~ 24:00
- 実施場所
国道25号 御堂筋
新橋交差点～難波西口交差点
(大阪市管理)
12箇所(静止画 9箇所
動画 3箇所)

位置図



実験内容

路面投影内容(多言語対応)



現況課題



御堂筋付近の交差点内で歩行しながら行き先を確認

実施状況



大阪府の「道の駅」

「道の駅」は、便利で質の高いサービスの提供を目指し、道路利用者の休憩施設であるとともに、地域のふれあいの場として、また、観光・防災への新たな機能も期待されています。

令和6年度の取組

- ・大阪府「道の駅」スタンプラリー開催
開催期間：2024年10月5日（土）～2025年2月11日（火）
参加者数：6,910名、全駅完走者数：1,176名（過去最高）
- ・曾根崎地下歩道にて「道の駅」のポスター掲示、パンフレット設置（随時）

